

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01864

研究課題名（和文）日本の都市型スタートアップ企業の立地戦略に関する大規模データ分析による解明

研究課題名（英文）An Empirical Study of Urban Startup Location Strategies in Japan Through Large-Scale Data Analysis

研究代表者

入山 章栄（IRIYAMA, AKIE）

早稲田大学・商学大学院(経営管理研究科)・教授

研究者番号：00721820

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、東京都におけるスタートアップ企業の立地状況を分析することを通じて、その立地パターンとその決定要因の解明を試みた。まず、東京都23区に所在するスタートアップ企業は、23区の中でも特定の区に集積していること、またそれらの区の中でも少数の丁目や番地に偏在していることを明らかにした。また、統計分析を通じて、こうした微細な地理的なスケールでの集積が、アーリーステージにあるスタートアップ企業が多く集まる丁目や番地でスタートアップ企業が設立されることで発生していること、ただし、多くのアーリーステージのスタートアップ企業が集まるエリアで操業すると、次ステージへの移行が遅滞することが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的な貢献は、先行研究がこれまで想定されていた「都市」のようなレベルよりもさらに微細な「丁目・番地」のレベルでスタートアップ企業が集積していることを可視化し、そのような集積をもたらす要因を解明したことにある。これらの成果をまとめた論文は主要な国際学会で採択されている。本研究の「丁目・番地の諸要因がスタートアップ企業の立地選択に影響を及ぼす」という知見は学術的な意義に留まらず、スタートアップ政策を推し進める政策担当者やスタートアップ企業の誘致を試みている各自治体や不動産ディベロッパー企業等に対して実践的な示唆を提供できると思われる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to elucidate the location patterns and determinants of startup companies in Tokyo. Firstly, the study revealed that startup companies within the 23 wards of Tokyo are concentrated in specific wards and, within these wards, are disproportionately located in a few specific neighborhoods and blocks. Furthermore, through statistical analysis, it was found that this “micro-clustering” occurs in neighborhoods and blocks where many early-stage startups are concentrated. However, it was also demonstrated that operating in areas with a high concentration of early-stage startups may delay their pace of growth to the next founding stage.

研究分野：経営学

キーワード：アントレプレナーシップ スタートアップ 集積

#### 1. 研究開始当初の背景

現在、スタートアップ企業やメガ・ベンチャーなどの設立後間もない企業が世界経済の成長を牽引している。それゆえ、スタートアップ研究が非常に高い関心を集めている。そこには、スタートアップの集積や立地が重要な研究テーマに位置付けられている。過去には、「輸送技術や情報通信技術の発展に伴う輸送費用や通信費用が劇的に低下したことによって、企業の経済活動は物理的な距離の影響から解放され、企業の立地は分散していく」という予測も提示されてきた。ところが現実にはそうした議論に反して、スタートアップ企業が特定の地域に集積する、という現象が多く観察されている。その代表例は米国のシリコンバレーであり、無数のスタートアップ企業が誕生し、その中から Google や Facebook のような米国経済を牽引する企業も含まれている。その他にも、インドならバンガロール、中国なら上海や深セン、欧州ならドイツのベルリン、そして日本なら東京を代表格として挙げることができる。とりわけ、近年の先行研究において、その集積が「都市」全体というよりも都市における特定の「丁目」や「通り」などで発生していることが確認されている。ところが、そのような微細な地理的なスケールでのスタートアップ企業の集積状況及びその決定要因に関する実証研究の成果は十分に蓄積されているとはいえない。

#### 2. 研究の目的

本研究の目的は、スタートアップ企業の都市部における立地パターンとその決定要因を解明することにある。

#### 3. 研究の方法

本研究では日本で最も広範にスタートアップ企業の立地やそれに関連するデータを収集している INITIAL 社から東京都に所在するスタートアップ企業の立地状況に関するデータを購入した。そのデータを用いて東京のスタートアップ企業の立地・集積状況を丁目・番地単位まで明らかにした。「丁目・番地」等の日本特有の住居表示の方法は本研究のような微細な地理的なスケールにおける集積を分析する上で優位性を持つ。米国を始め多くの国々では、住居表示に関して「道路方式」を採用している。これは都市内の道路に名称を付け、その道路に接している建物に住居番号を付与するものである(住居は 市 通り 号と表記される)。それに対して、日本においては「街区方式」が採用されており、一定の規模で区画された丁目や番地ごとに符号や住居番号が付与される(住居は 市 丁目 番 号と表記される)。そのため、米国などの多くの国々のデータを用いた実証研究は都市レベルあるいは ZIP コード(米国における郵便番号)レベルという、比較的粒度の荒い分析になることが多い。ところが、東京都に所在するスタートアップ企業のデータを用いることで、丁目や番地といった非常に細かい区画(ブロック)ごとに立地状況を分析することができるのである。このような立地状況の分析に加えて、そのスタートアップ企業の集積の決定要因をコンディショナル・ロジスティック回帰分析などの解析手法を用いて分析した。

#### 4. 研究成果

本研究では東京都に所在するスタートアップ企業の立地データを基に大規模な統計解析を行い、その立地パターンとその決定要因の解明を試みた。まず、東京都 23 区に所在するスタートアップ企業は、港区、渋谷区、千代田区、中央区、新宿区などの特定の区に偏在していること、それらの区の中でも少数の丁目や番地にスタートアップ企業が集積していることを明らかにした。また、統計分析を通じて、こうした微細な地理的なスケールでの集積が、アーリーステージにあるスタートアップ企業が多く集まる丁目や番地でスタートアップ企業が設立されることで発生していること、ただし、多くのアーリーステージのスタートアップ企業が集まるエリアで操業すると、次ステージへの移行が遅滞することが示された。本研究の成果をまとめた論文は Strategic Management Society や Society for the Advancement of Socio-Economics 等の

主要国際学会に採択された。今後、その研究報告で得られたフィードバックを基に論文を修正し、海外の主要学術誌に論文を投稿する予定である。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1 . 発表者名 Hirokazu Kano, Akie Iriyama
2 . 発表標題 The Micro-Clustering of Entrepreneurial Activities in Urban Areas of Tokyo
3 . 学会等名 Society for the Advancement of Socio-Economics ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Hirokazu Kano, Akie Iriyama
2 . 発表標題 Do Startups Prefer or Avoid Agglomeration? Location Choice of Newly Formed Startups in Urban Areas
3 . 学会等名 The 43rd Annual Conference of Strategic Management Society ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6 . 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	加納 拡和  (KANO HIROKAZU)  (10814220)	大分大学・経済学部・准教授   (17501)	

7 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------